# 横田基地 日本人福祉協会「日本祭り」新春イベントにぎわう

*JWA Japan Culture Day: sights, sounds and tastes of Japan*

January 11, 2016

by Naoko Kurokui
374th Airlift Wing Public Affairs

日本の伝統的な新年行事を基地内でも従業員や家族らに楽しんでもらおうと、横田基地日本人福祉協会(JWA)は1月８日、新春イベント「日本祭り」を開催した。

午前11時からのイベントには、日本人従業員、軍人・米民間人やその家族、自衛官など約450人が集まり、同協会事務所の建物は賑やかな雰囲気に包まれた。

開会の口火を切ったのは、日米のメンバーで構成された横田サムライ太鼓チーム。全身で打ち込む勇壮なバチさばきで和太鼓の音色を場内に轟かせた。続いて日本人福祉協会真鍋英治会長、第374使命支援群司令官スコット・マスカリー大佐、きらら亭尾崎泉代表取締役による鏡開きが行われた。酒樽が木槌で割って開けられると会場からは拍手が沸いた。また餅つき・着付け体験、琴、三味線の演奏、航空自衛隊横田基地「蒼空会」による、よさこい踊りの披露など多彩な催しが行われ、来場者たちは日本の伝統文化を次々と楽しんだ。

餅つき体験コーナーでは、杵を振り上げるアメリカ人の姿も。餅を食べるのは初めてというアメリカ人の来場者たちも、箸で持ち上げると伸びる餅をおいしそうに頬張っていた。また着物体験コーナーでは、艶やかな着物に身を包んだ女性の来場者たちが、嬉しそうな笑顔で着物姿を写真に収めていた。

日本食堂「OFUKUROYA」では、新春特別メニューとして出された寿司職人が握る「握り寿司セット」が今年も人気を集め、客席がほぼ満席状態となった。また今回は、持ち帰り用の天丼・かつ丼・ちらし寿司などの屋外販売も行われた。

日本人福祉協会の真鍋英治会長は「好天にも恵まれ、基地内の日本人とアメリカ人が沢山集まってくれたことを大変嬉しく思う。従業員が力を合わせ、手づくりでこのイベントを実現できたこと誇りに思う。このようなイベントが今後も長く続き、日米両国の融和が深く育まれることを願っている」とコメントした。

同協会主催の新春イベントは、2013年から恒例となっている。

日本人福祉協会は、横田基地内に事務所を置き、日本人従業員を会員としてさまざまな福利厚生サービスや施設を提供している。1947年に「日本人厚生会」として設立され、今年で発足69年を迎える。

力強い演奏で観客を魅了した横田サムライ太鼓チーム（左）
作りたてのランチは飛ぶように売れた（右）

軽快よく三味線を弾く横田基地従業員
部署の異なるメンバーがこの日のためにグループを結成した

航空自衛隊横田基地「蒼空会」よさこいチーム
日米のメンバーが活気溢れるダンスを披露した